

福島県感染症発生動向調査 月報

Infectious Diseases Monthly Report FUKUSHIMA

2026年4月号
令和8年4月30日発行

総評

- ・性器クラミジア感染症は、前月と比較して増加しており、女性の報告が増加しています。
- ・性器ヘルペスウイルス感染症は、前月と比較して増加しており、男性の報告が増加しています。
- ・尖圭コンジローマは、前月と比較して男女共に減少しています。
- ・淋菌感染症は、前月と比較して男女共に増加しています。

- ・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は、前月と比較して横ばいです。
- ・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症（※）の報告はありませんでした。

（※）薬剤耐性緑膿菌感染症は令和8年4月6日より「**多剤耐性緑膿菌感染症**」の名称で全数把握対象疾患に変更されたため、今月号までの掲載となります

目次

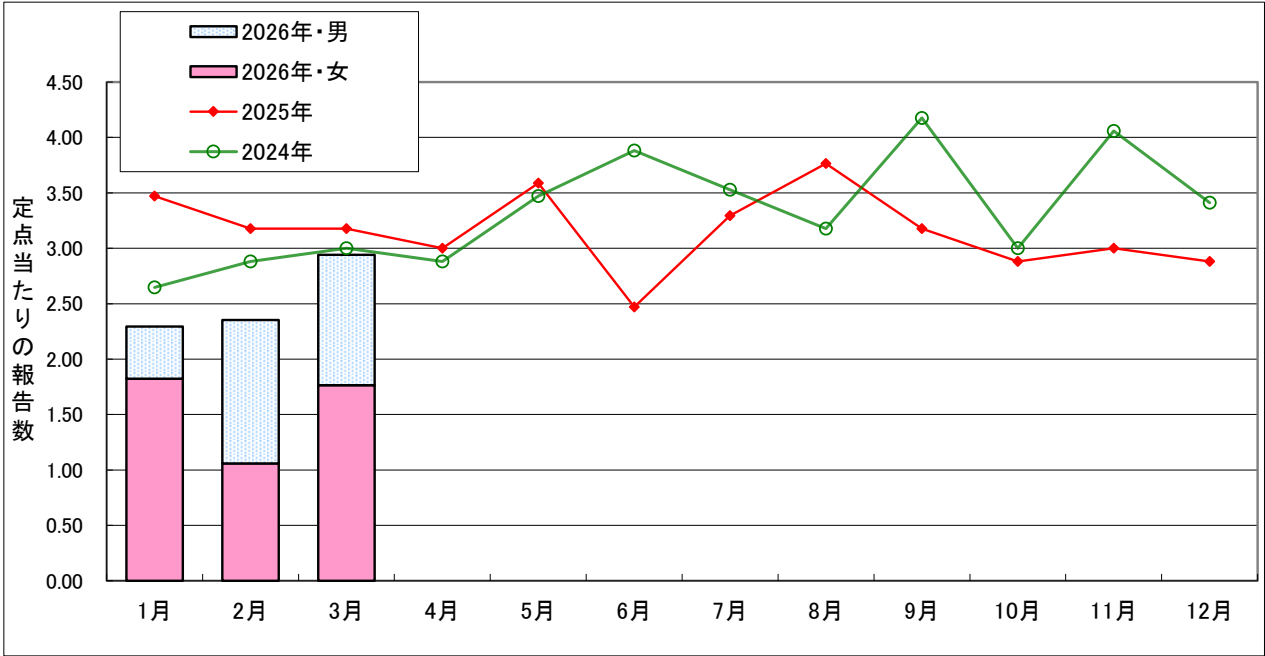
【STD 疾患】

- ・性器クラミジア感染症 2～3
- ・性器ヘルペスウイルス感染症 4～5
- ・尖圭コンジローマ 6～7
- ・淋菌感染症 8～9

【薬剤耐性菌感染症】

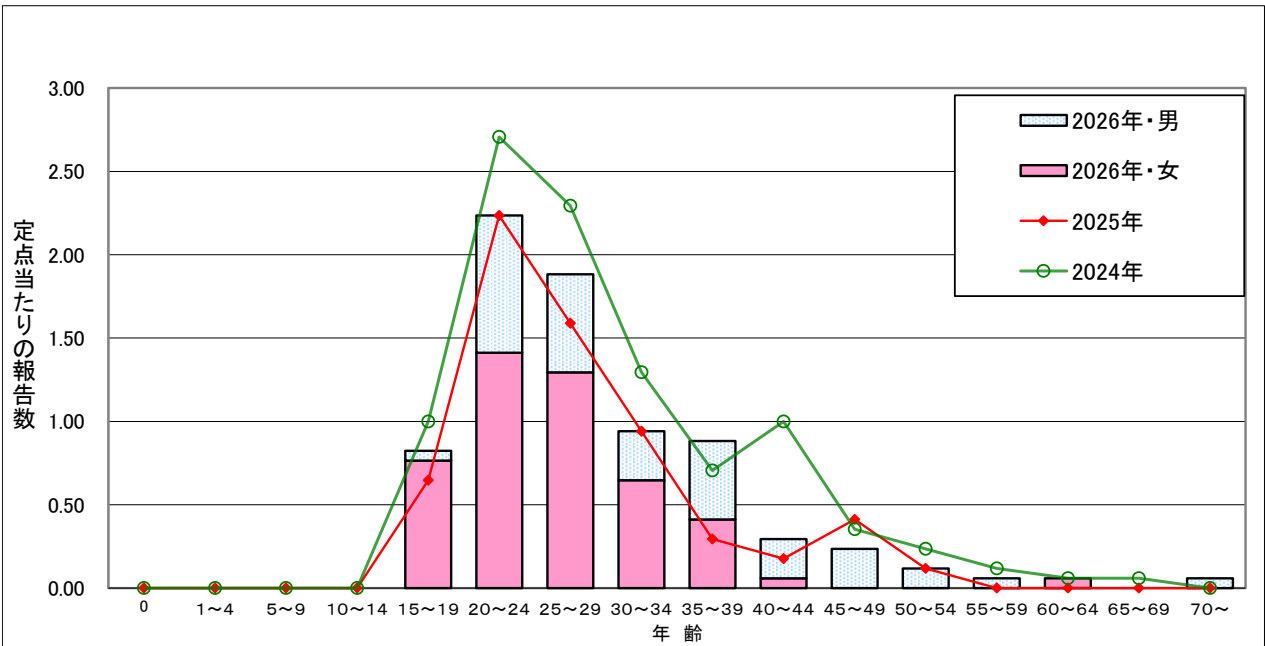
- ・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 10～11
- ・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 12～13
- ・薬剤耐性緑膿菌感染症 14～15

性器クラミジア感染症

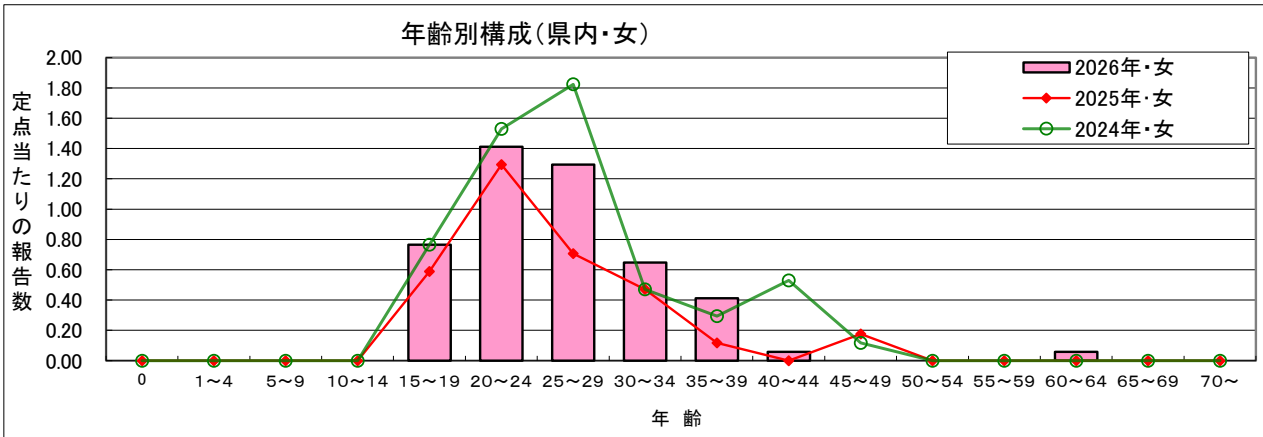
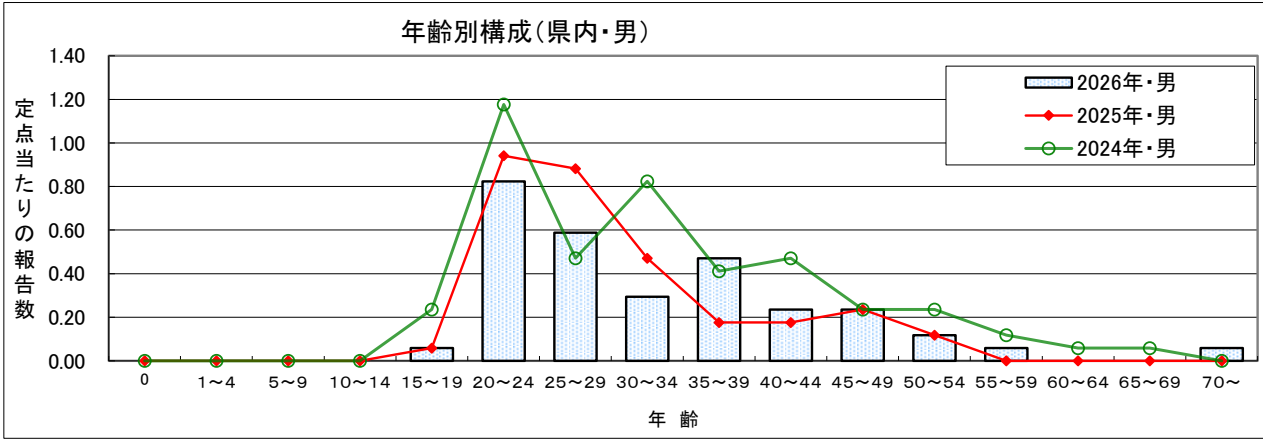


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2026年・男	0.47	1.29	1.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2026年・女	1.82	1.06	1.76	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2026年	2.29	2.35	2.94	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2025年	3.47	3.18	3.18	3.00	3.59	2.47	3.29	3.76	3.18	2.88	3.00	2.88
2024年	2.65	2.88	3.00	2.88	3.47	3.88	3.53	3.18	4.18	3.00	4.06	3.41

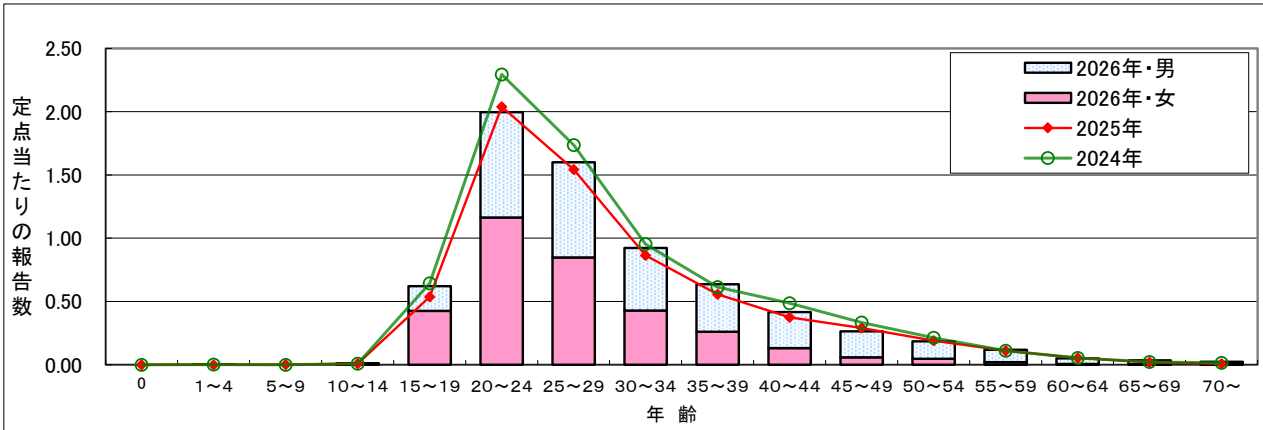
2024～2026年 県内の年齢別構成(1月～3月)



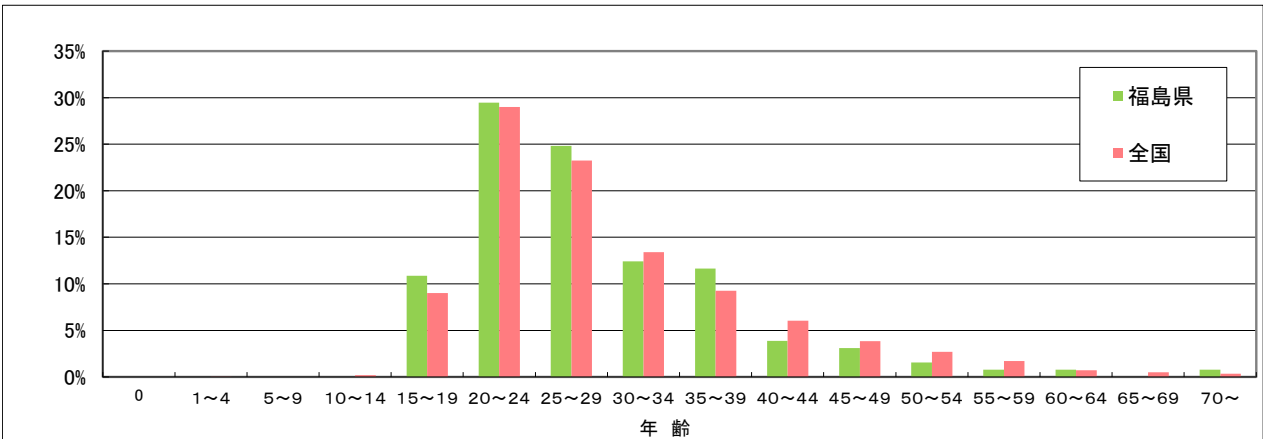
2024～2026年 男女別年齢別構成の比較(1月～3月)



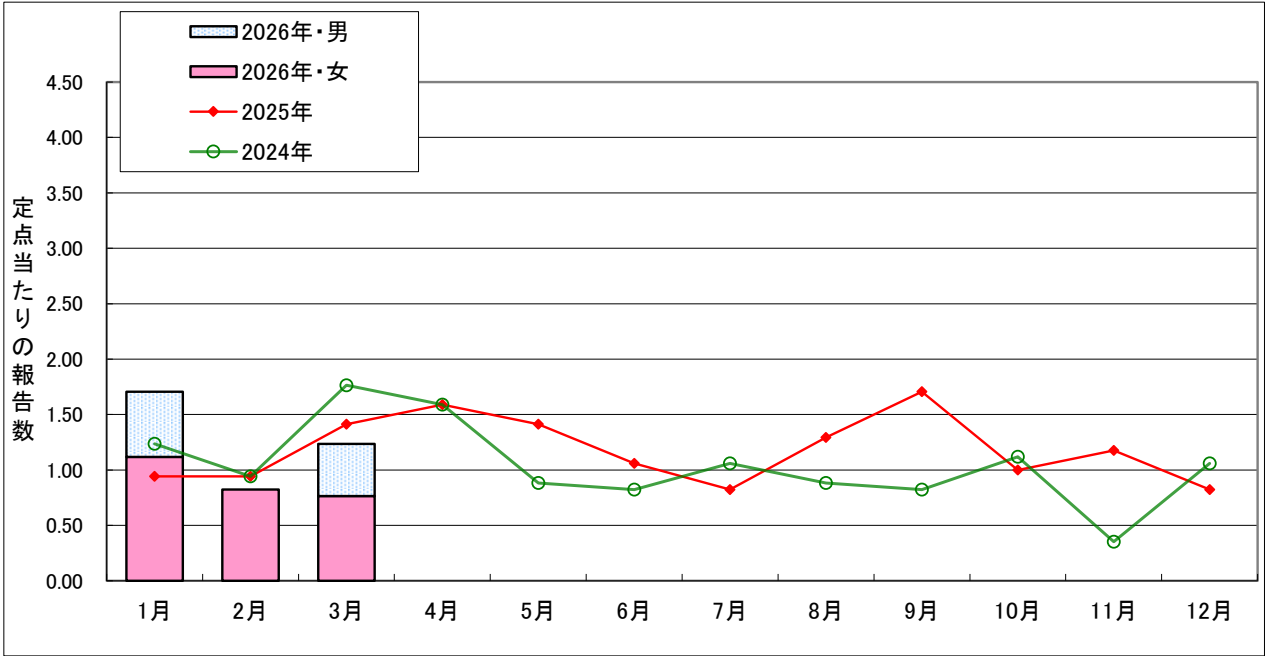
2024～2026年 全国の年齢別構成(1月～3月)



2026年 年齢別構成の比較(1月～3月)

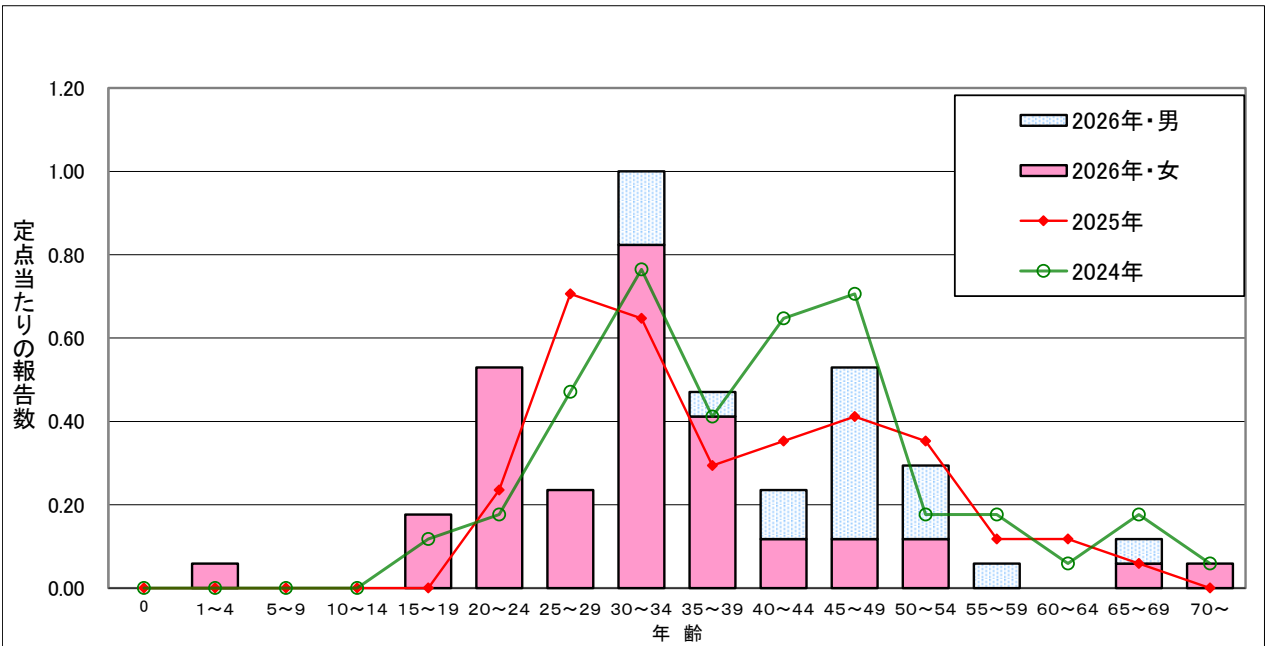


性器ヘルペスウイルス感染症

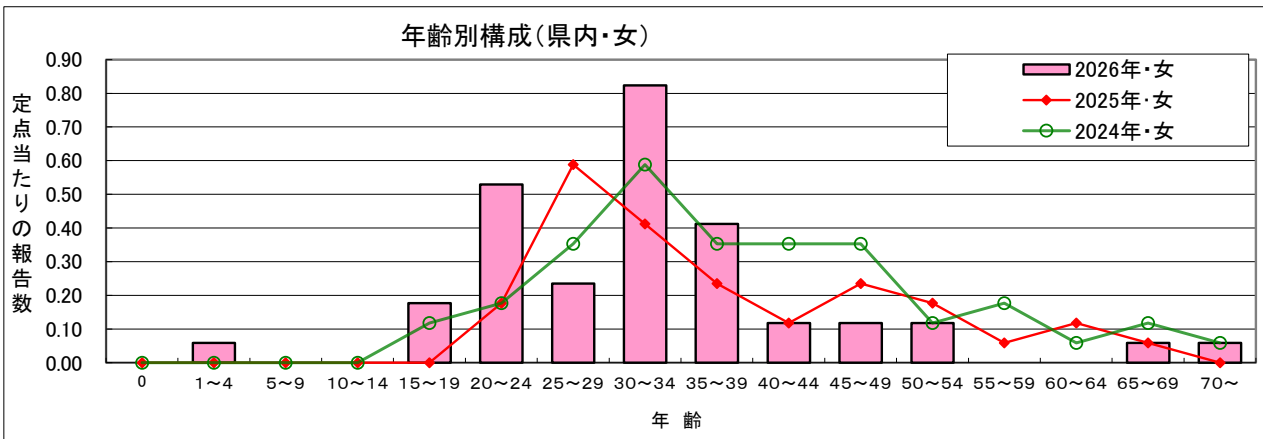
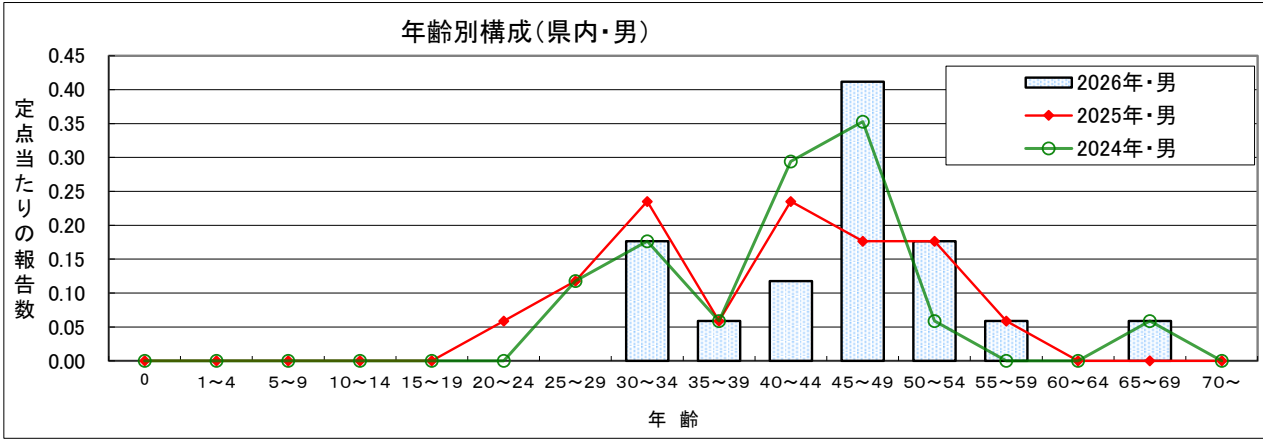


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2026年・男	0.59	0.00	0.47	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2026年・女	1.12	0.82	0.76	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2026年	1.71	0.82	1.24	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2025年	0.94	0.94	1.41	1.59	1.41	1.06	0.82	1.29	1.71	1.00	1.18	0.82
2024年	1.24	0.94	1.76	1.59	0.88	0.82	1.06	0.88	0.82	1.12	0.35	1.06

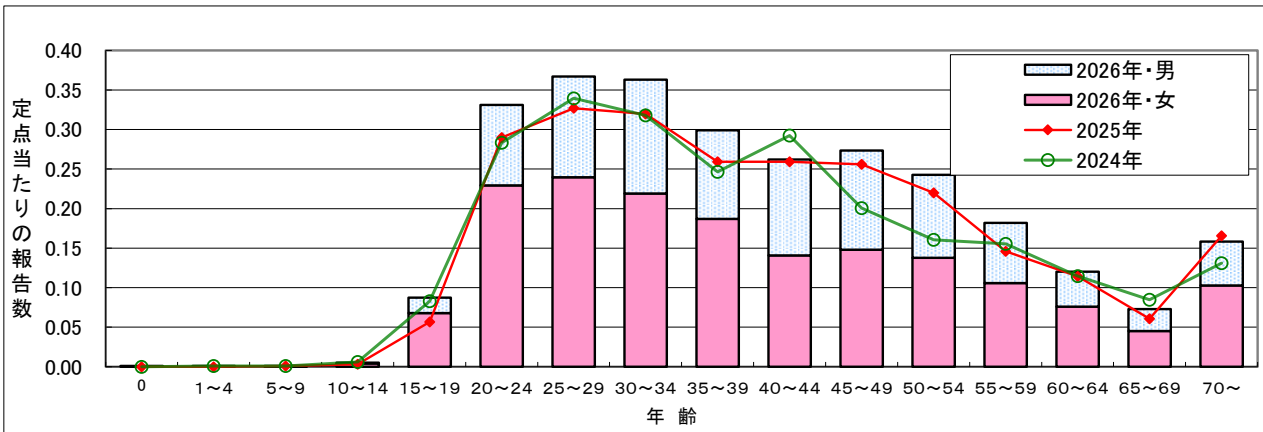
2024～2026年 県内の年齢別構成(1月～3月)



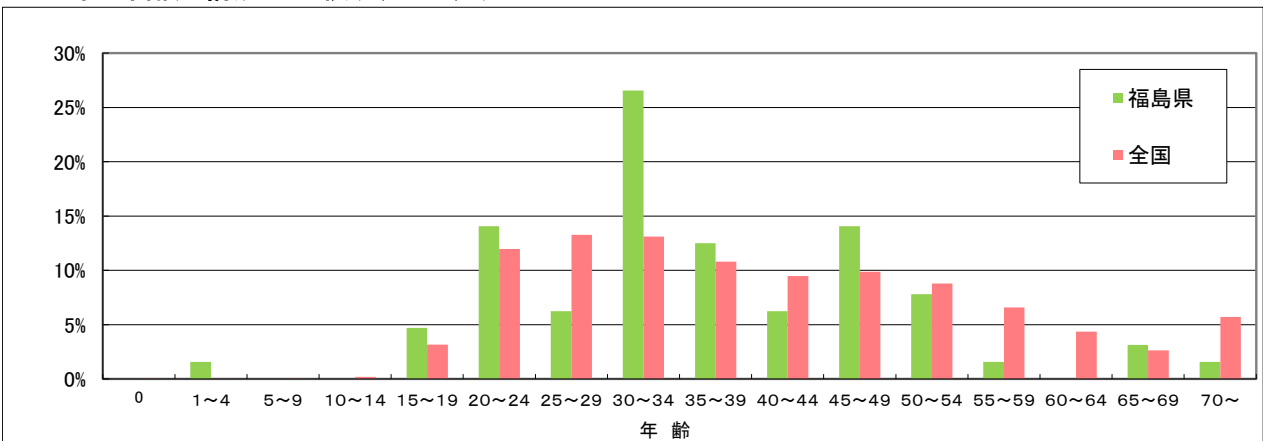
2024～2026年 男女別年齢別構成の比較(1月～3月)



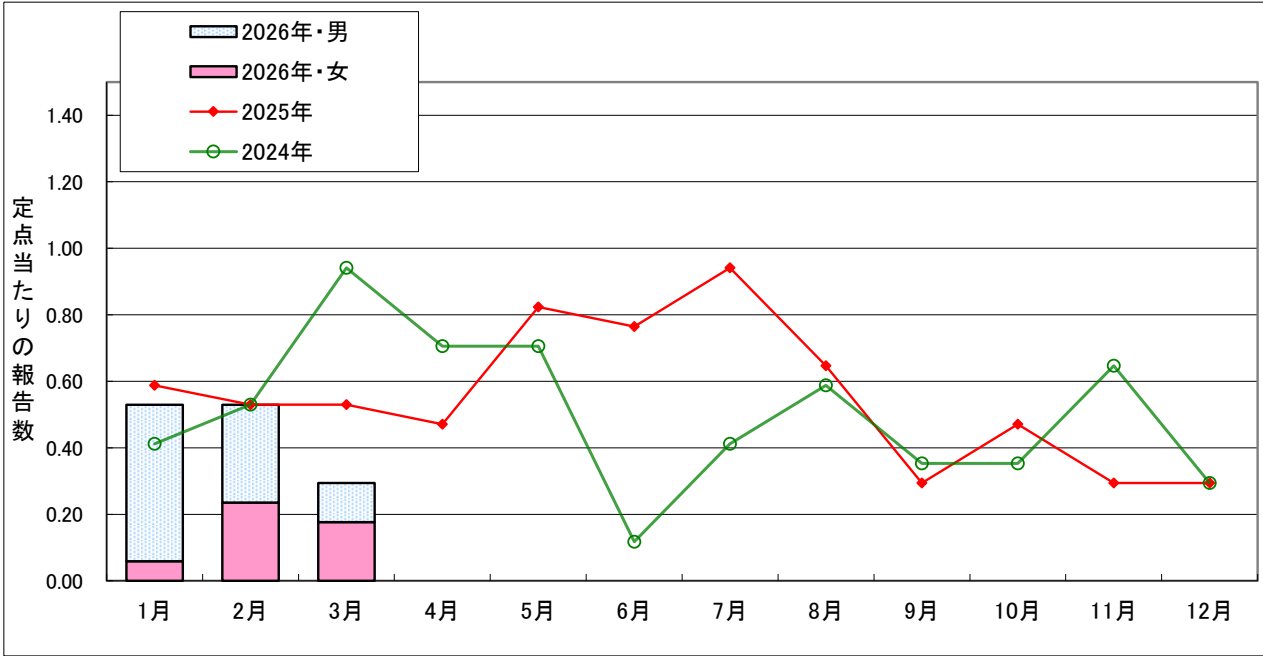
2024～2026年 全国の年齢別構成(1月～3月)



2026年 年齢別構成の比較(1月～3月)

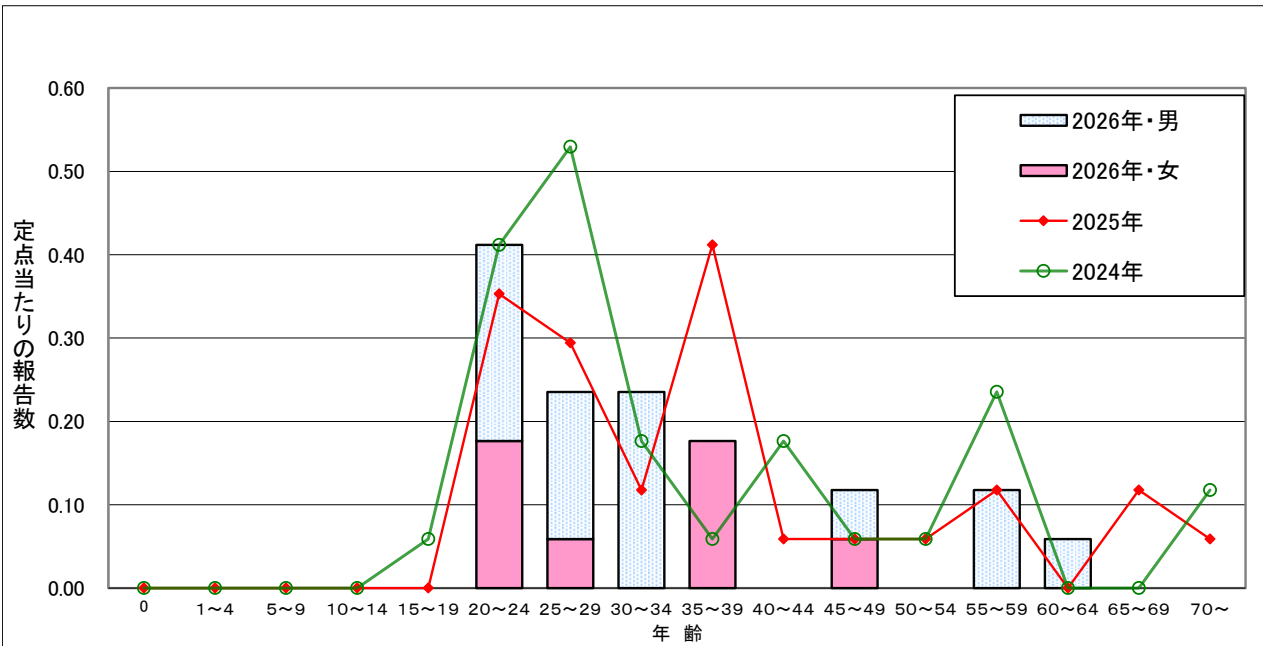


尖圭コンジローマ

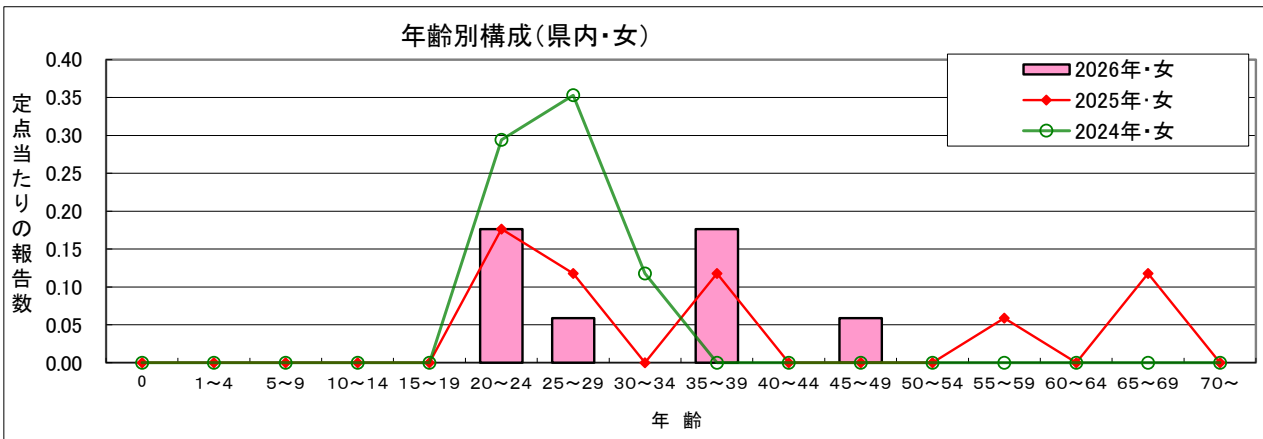
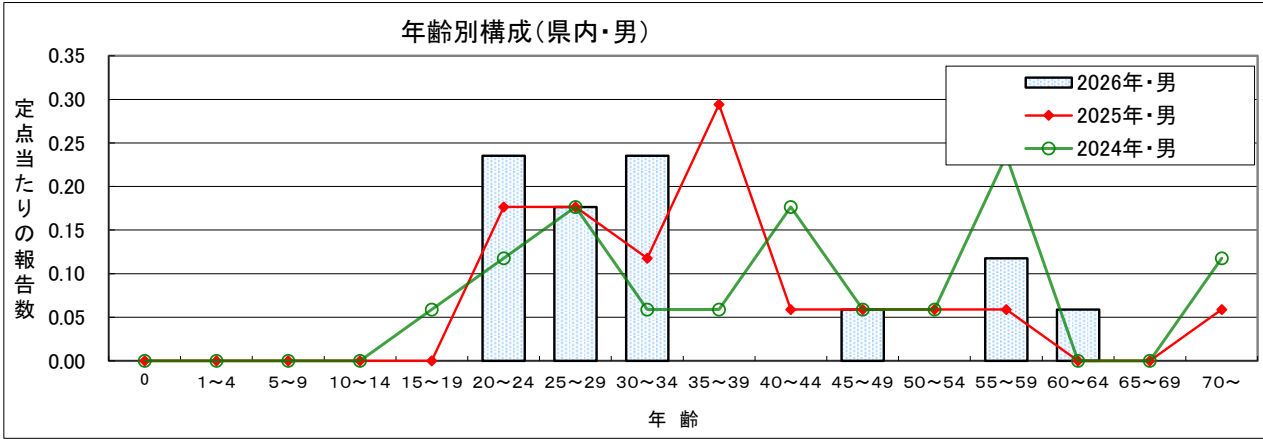


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2026年・男	0.47	0.29	0.12	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2026年・女	0.06	0.24	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2026年	0.53	0.53	0.29	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2025年	0.59	0.53	0.53	0.47	0.82	0.76	0.94	0.65	0.29	0.47	0.29	0.29
2024年	0.41	0.53	0.94	0.71	0.71	0.12	0.41	0.59	0.35	0.35	0.65	0.29

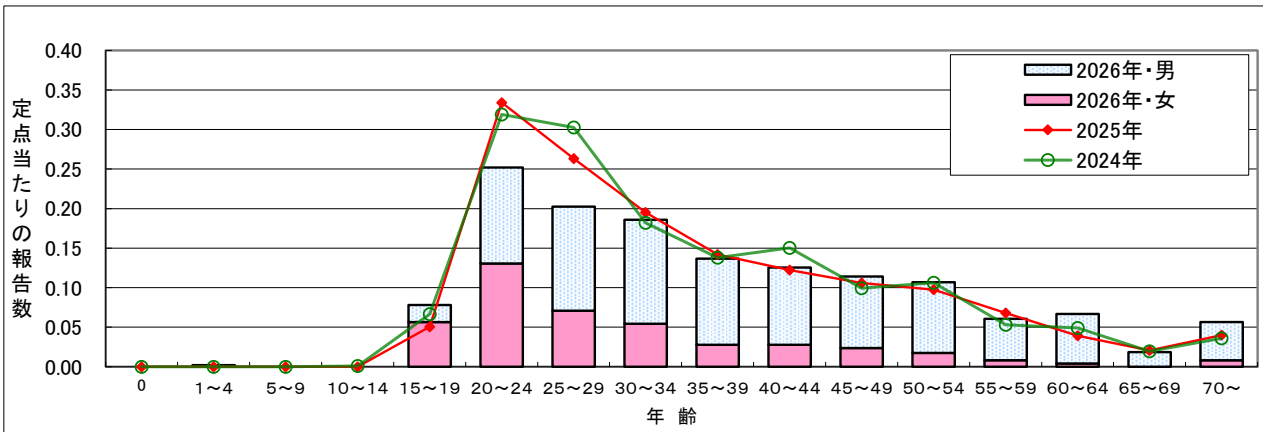
2024～2026年 県内の年齢別構成(1月～3月)



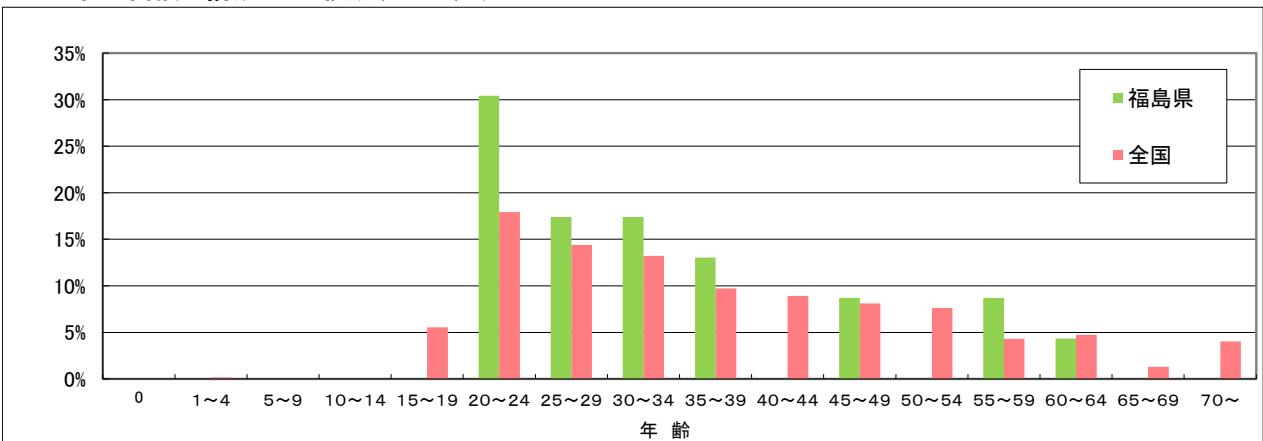
2024～2026年 男女別年齢別構成の比較(1月～3月)



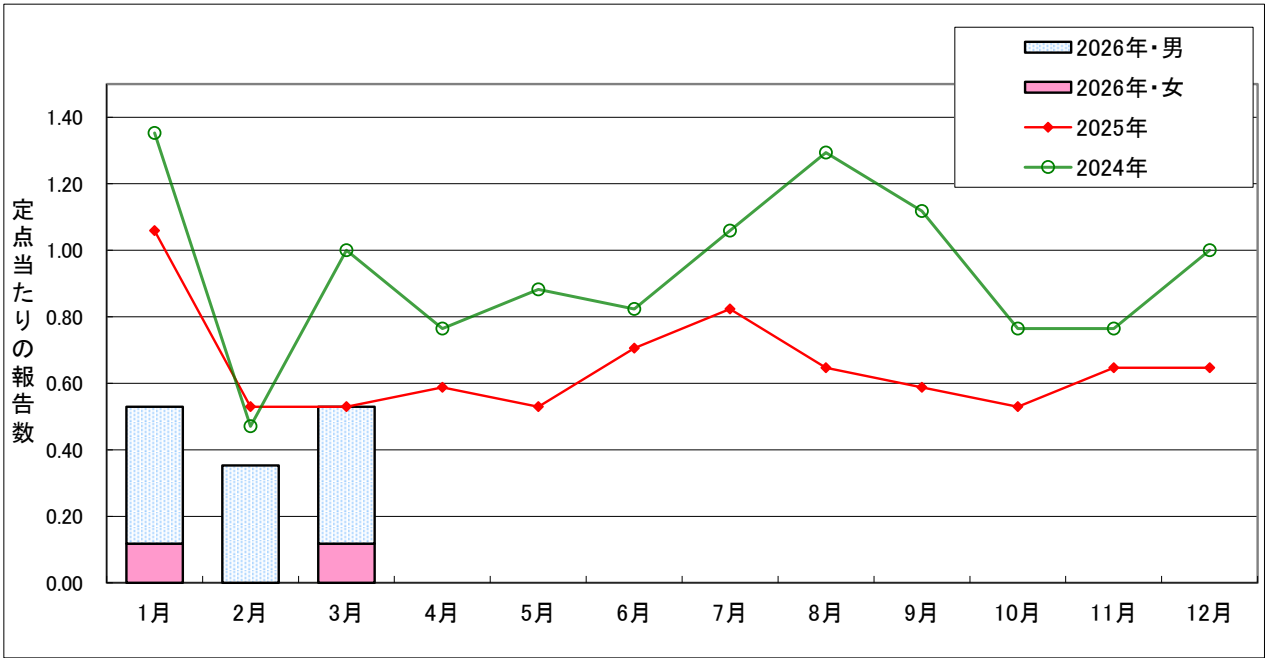
2024～2026年 全国の年齢別構成(1月～3月)



2026年 年齢別構成の比較(1月～3月)

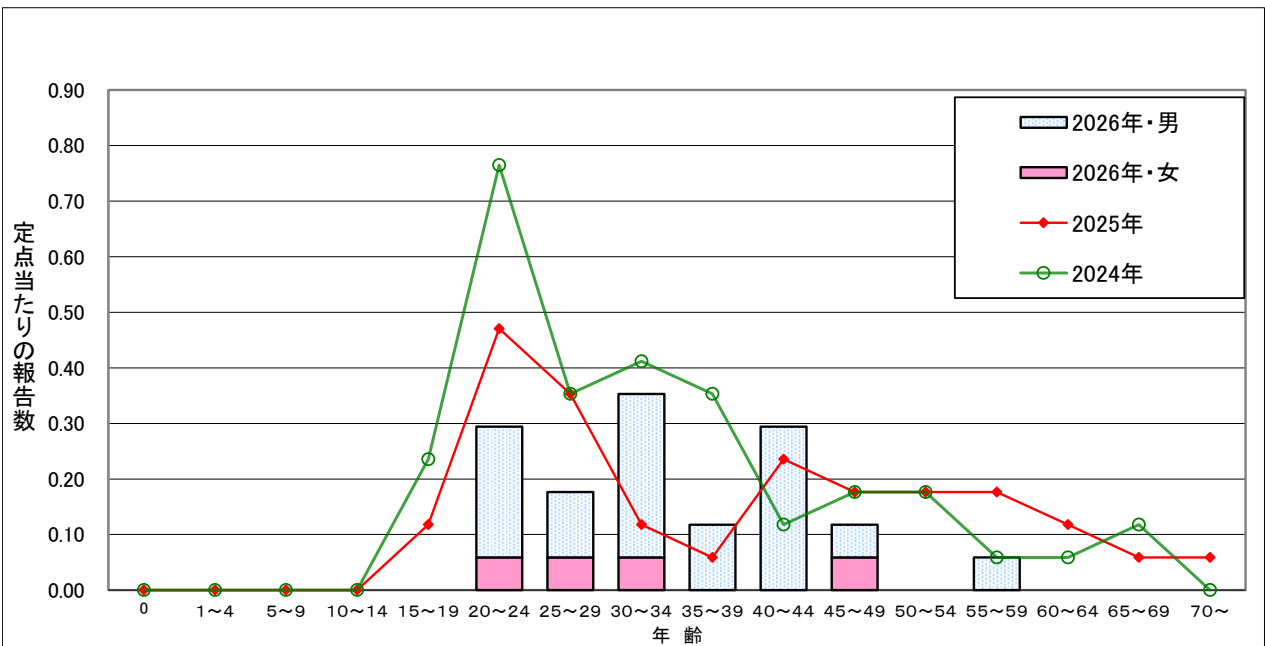


淋菌感染症

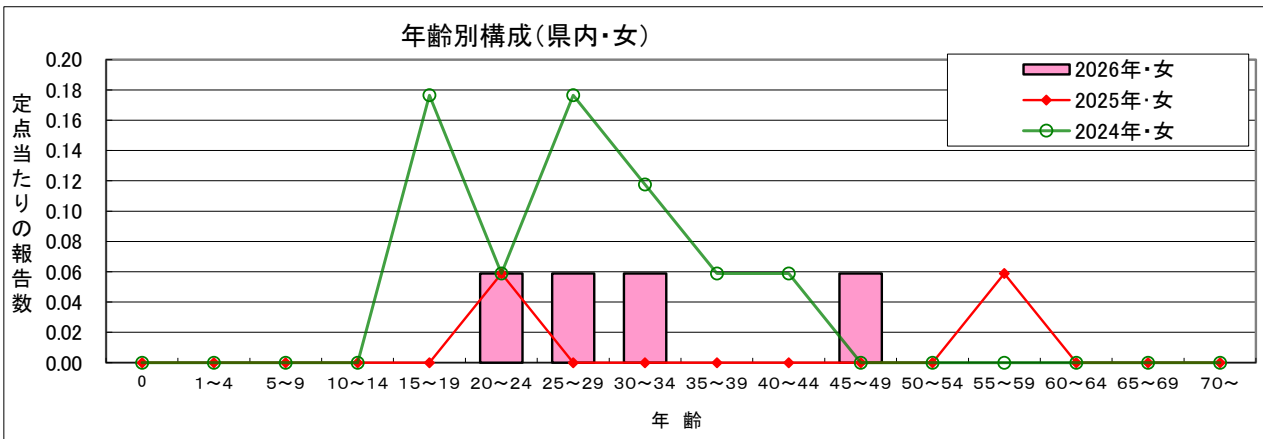
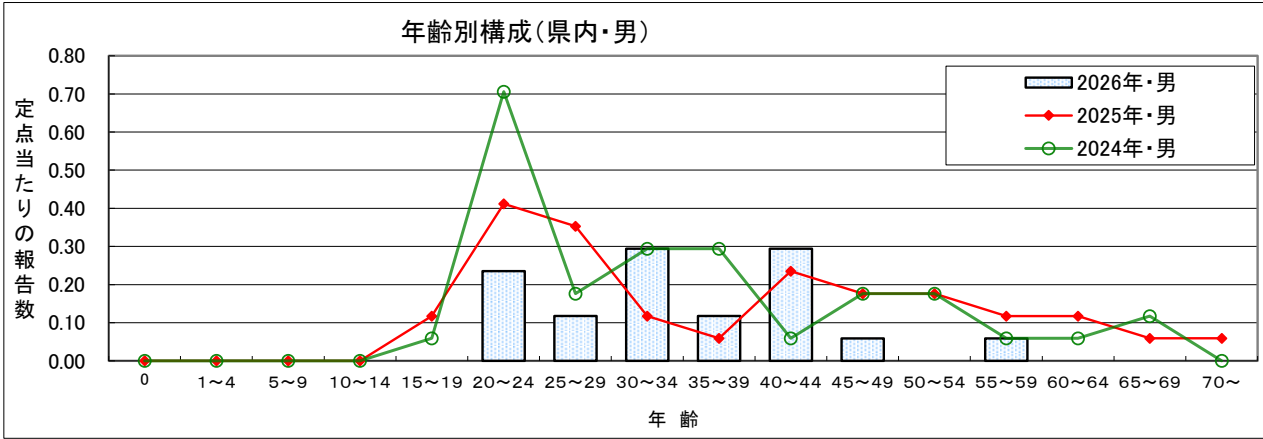


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2026年・男	0.41	0.35	0.41	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2026年・女	0.12	0.00	0.12	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2026年	0.53	0.35	0.53	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2025年	1.06	0.53	0.53	0.59	0.53	0.71	0.82	0.65	0.59	0.53	0.65	0.65
2024年	1.35	0.47	1.00	0.76	0.88	0.82	1.06	1.29	1.12	0.76	0.76	1.00

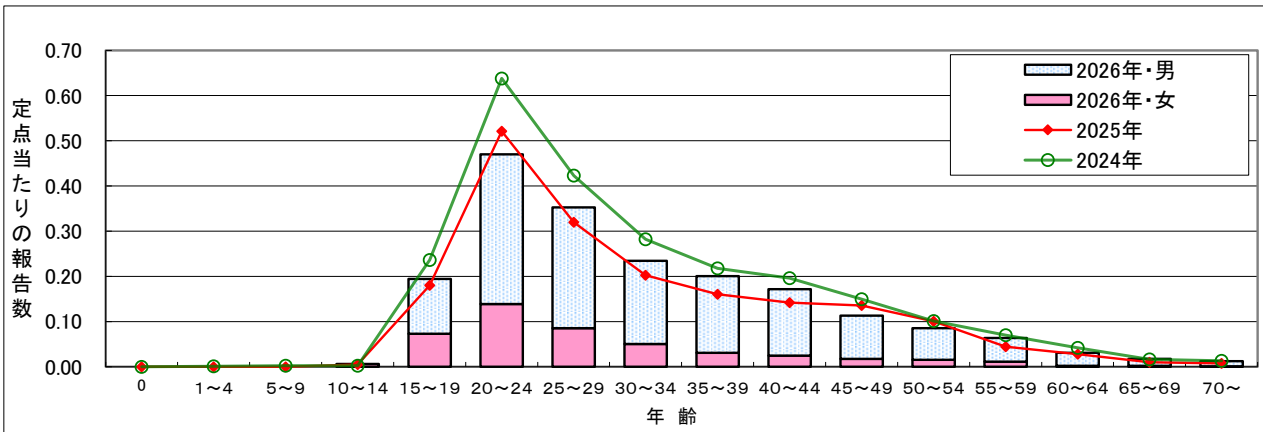
2024～2026年 県内の年齢別構成(1月～3月)



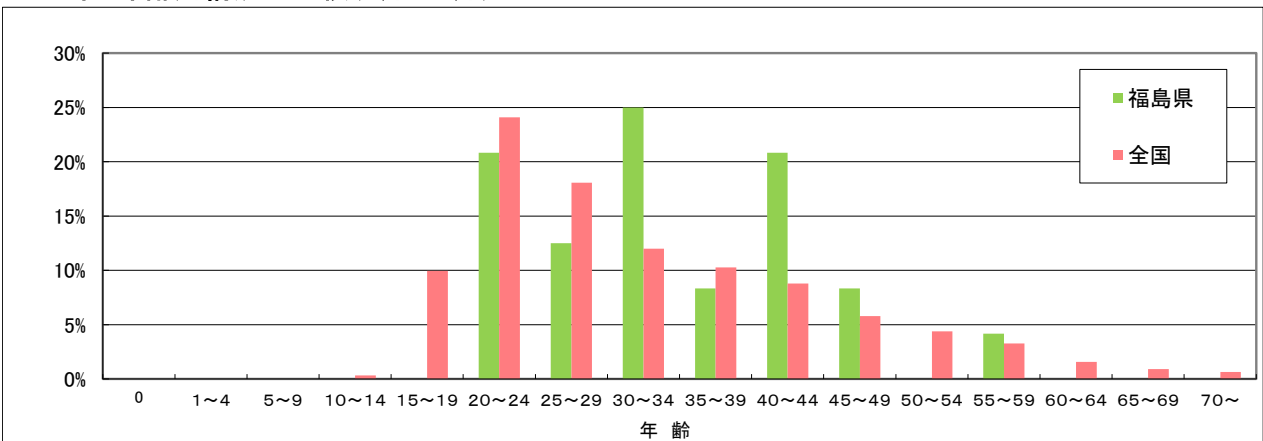
2024～2026年 男女別年齢別構成の比較(1月～3月)



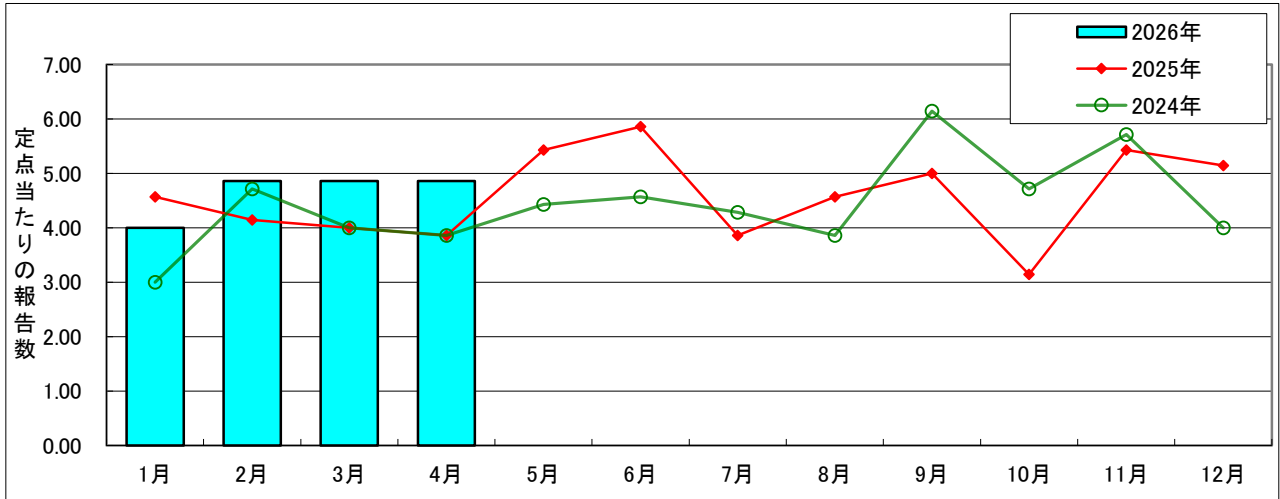
2024～2026年 全国の年齢別構成(1月～3月)



2026年 年齢別構成の比較(1月～3月)

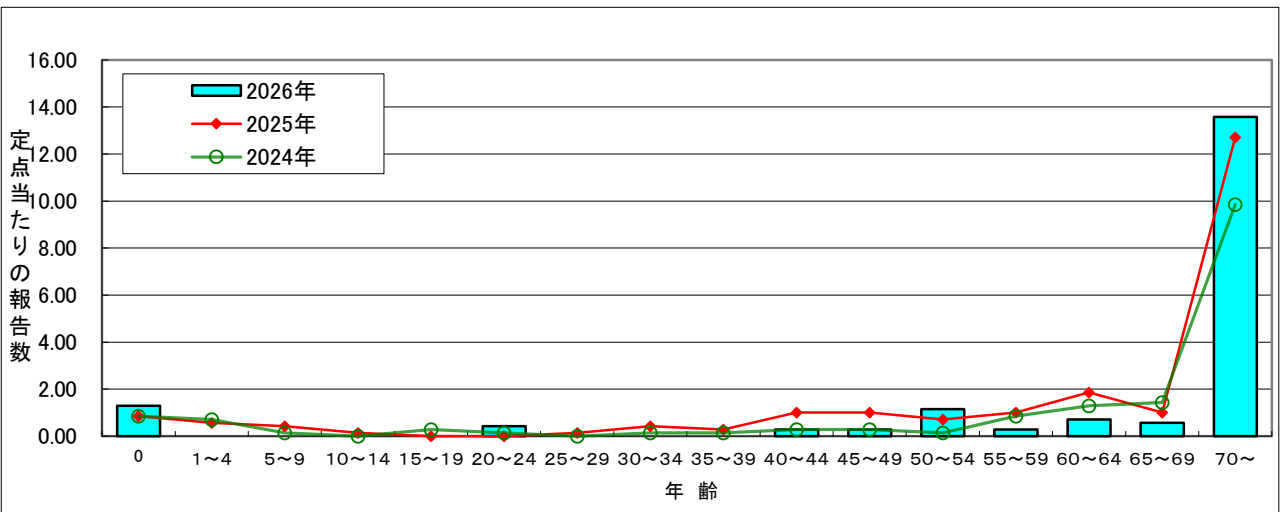


メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

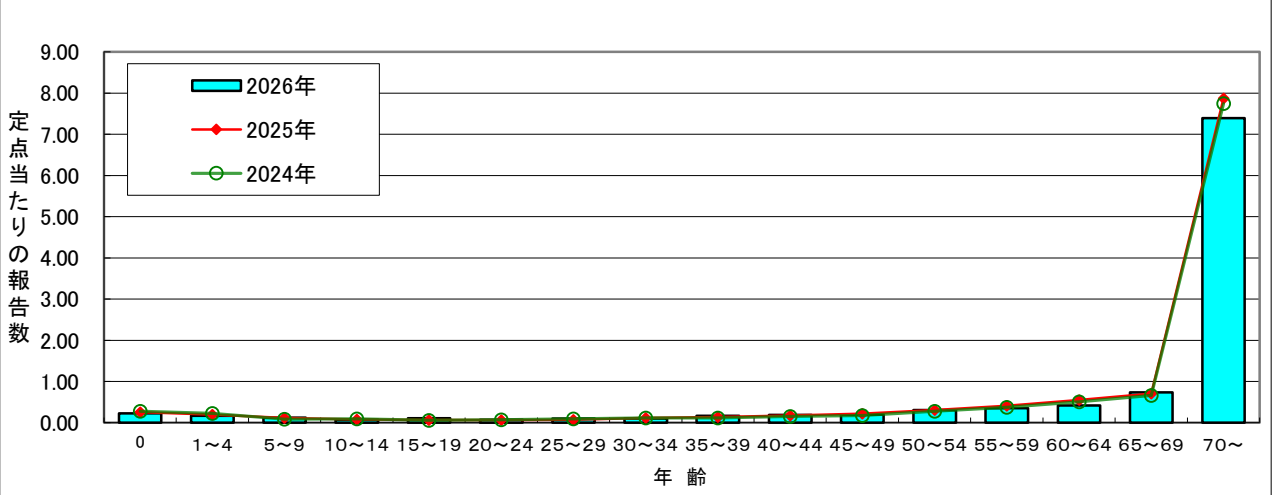


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2026年	4.00	4.86	4.86	4.86	—	—	—	—	—	—	—	—
2025年	4.57	4.14	4.00	3.86	5.43	5.86	3.86	4.57	5.00	3.14	5.43	5.14
2024年	3.00	4.71	4.00	3.86	4.43	4.57	4.29	3.86	6.14	4.71	5.71	4.00

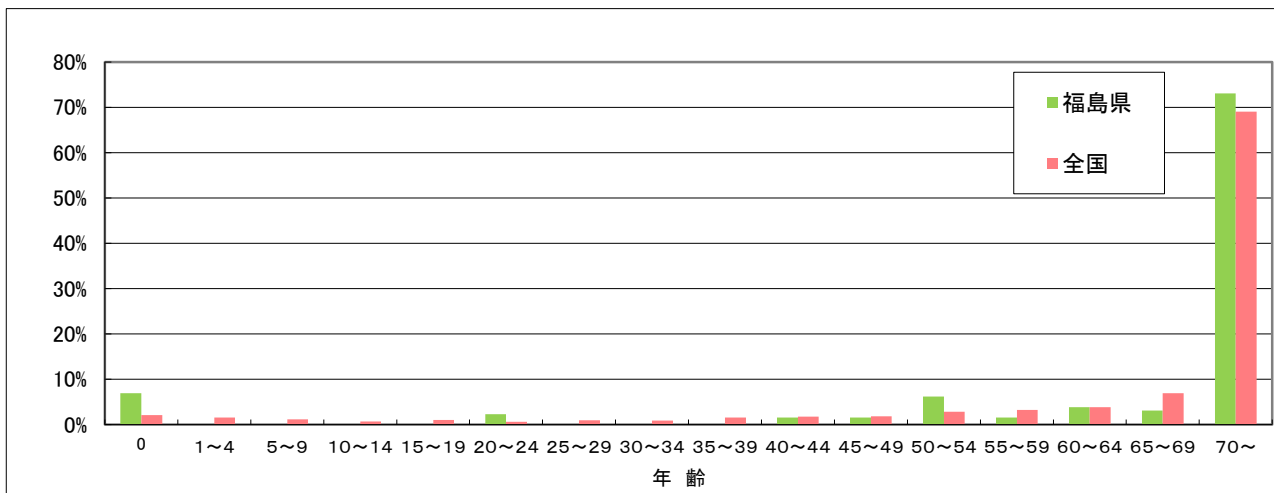
2024~2026年 県内の年齢別構成(1月~4月)



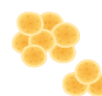
2024~2026年 全国の年齢別構成(1月~4月)



2026年 年齢別構成の比較(1月～4月)



【Q&A】



メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症とは？

メチシリンやその他の多くの薬剤(抗生剤)に対して耐性を示す黄色ブドウ球菌による感染症で、英語の頭文字から「MRSA」と呼ばれています。

メチシリンとは？

ペニシリン系の抗生剤の1つで、ペニシリンを分解する酵素(ペニシリナーゼ)に耐性を持ちます。以前は抗ブドウ球菌剤として使用されてきましたが、MRSAはこのメチシリンに耐性を持っています。

感染経路は？

一般的な黄色ブドウ球菌と同様、接触感染や飛沫感染します。入院により免疫力が低下した患者の感染例が多く、特に手術後の感染リスクが高い傾向にあります。

症状は？

傷口の化膿等の軽症から、肺炎、敗血症、髄膜炎等の重篤な症状まで多様です。

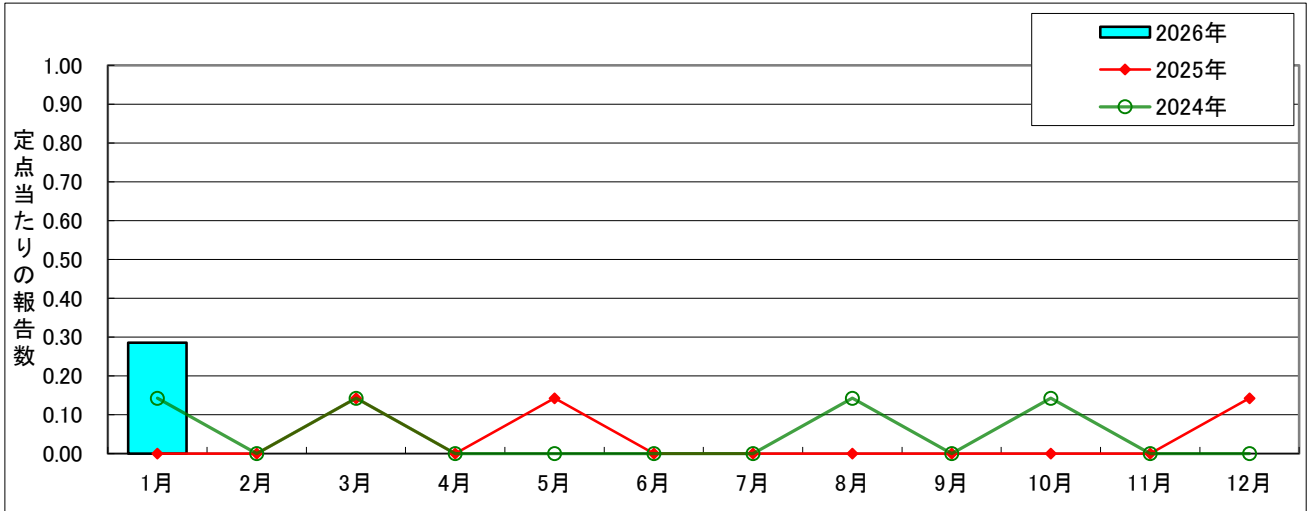
感染対策は？

入院患者の感染予防が最も大切です。お見舞いの際は手指消毒等の基本的な感染対策をしっかり行いましょう。また、院内感染対策として、日常的に手が触れやすい手すりやドアノブ等の定期消毒、医療器具の消毒、手洗いの徹底が重要です。

福島県では？

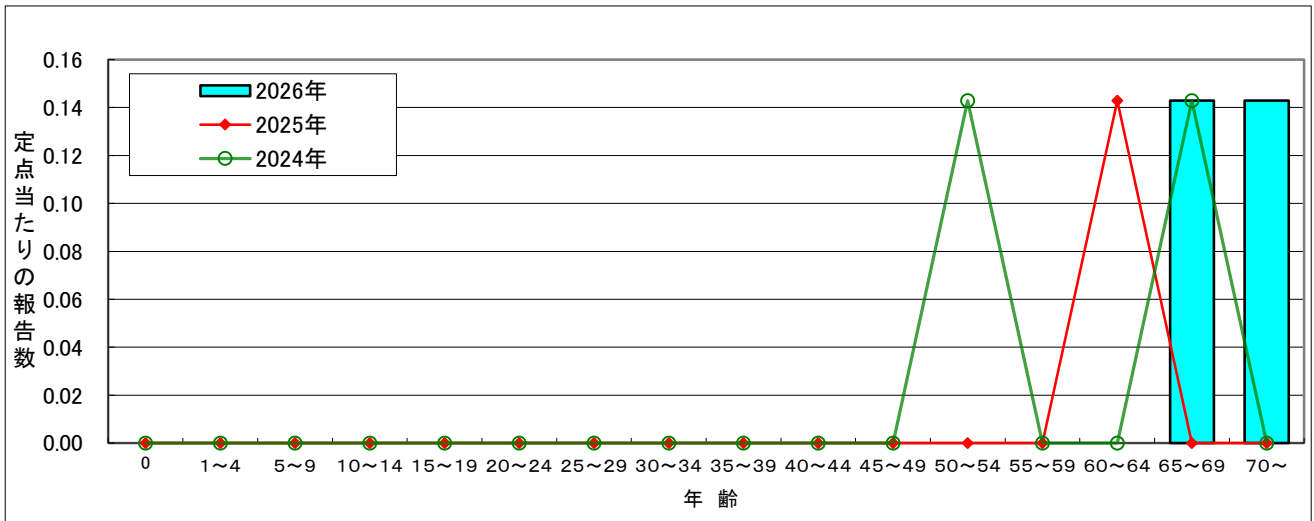
全国の傾向と同様に、高齢者の感染がほとんどを占めています。2024～2026年は、顕著な増加

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

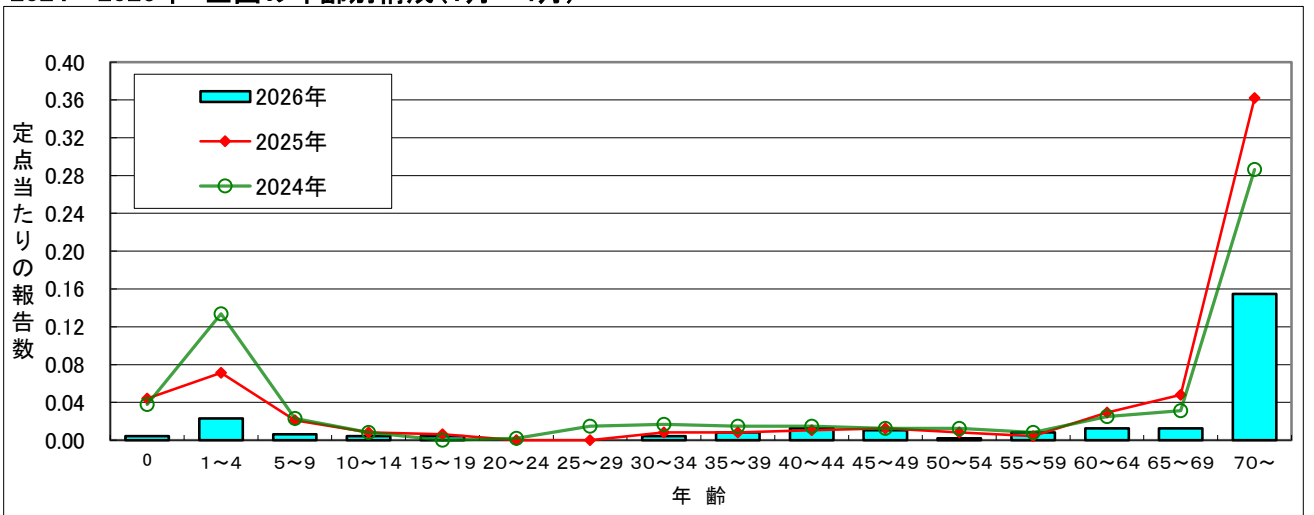


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2026年	0.29	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	—	—	—	—
2025年	0.00	0.00	0.14	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14
2024年	0.14	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.14	0.00	0.00

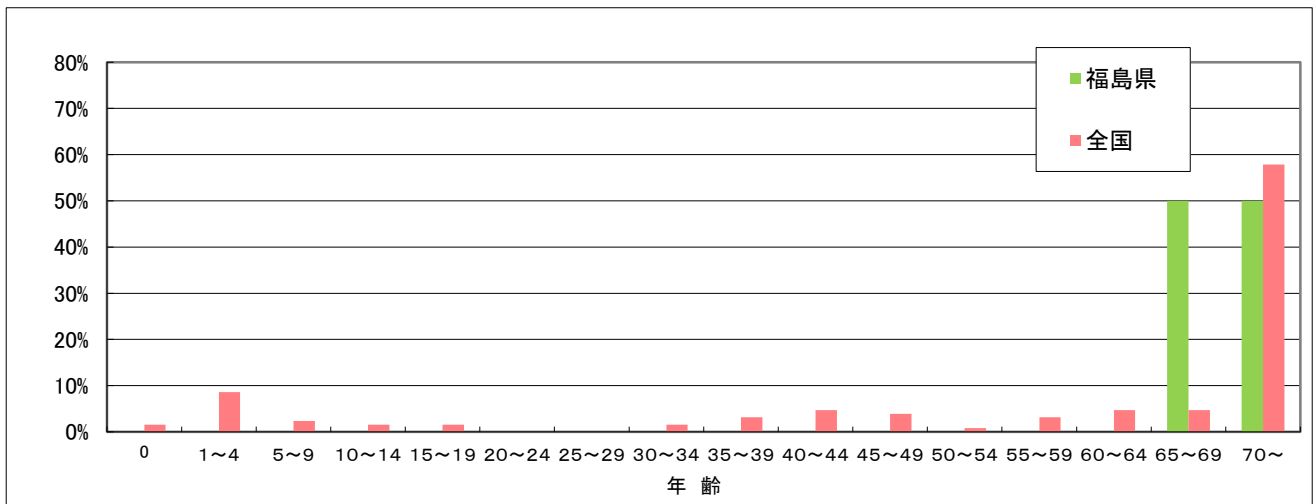
2024~2026年 県内の年齢別構成(1月~4月)



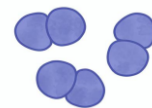
2024~2026年 全国の年齢別構成(1月~4月)



2026年 年齢別構成の比較(1月～4月)



【Q&A】



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症とは？

ペニシリンに耐性を示す肺炎球菌による感染症で、英語の頭文字から「PRSP」と呼ばれています。

ペニシリンとは？

フレミングによって発見された、世界で最初の抗生剤です。細菌の細胞壁の合成酵素の活性を阻害することで、増殖を抑制し、死滅させます。発見初期はブドウ球菌等に強く作用し、多くのペニシリン系抗生剤が開発されましたが、使用の拡大に伴いペニシリン耐性菌が出現するようになりました。

感染経路は？

一般的な肺炎球菌と同様、飛沫感染しますが、健常者は無症状が多く、乳幼児や高齢者等、免疫力が落ちた方に症状が現れる傾向があります。

症状は？

乳幼児の髄膜炎、小児の中耳炎、高齢者の肺炎等、様々な症状が見られます。

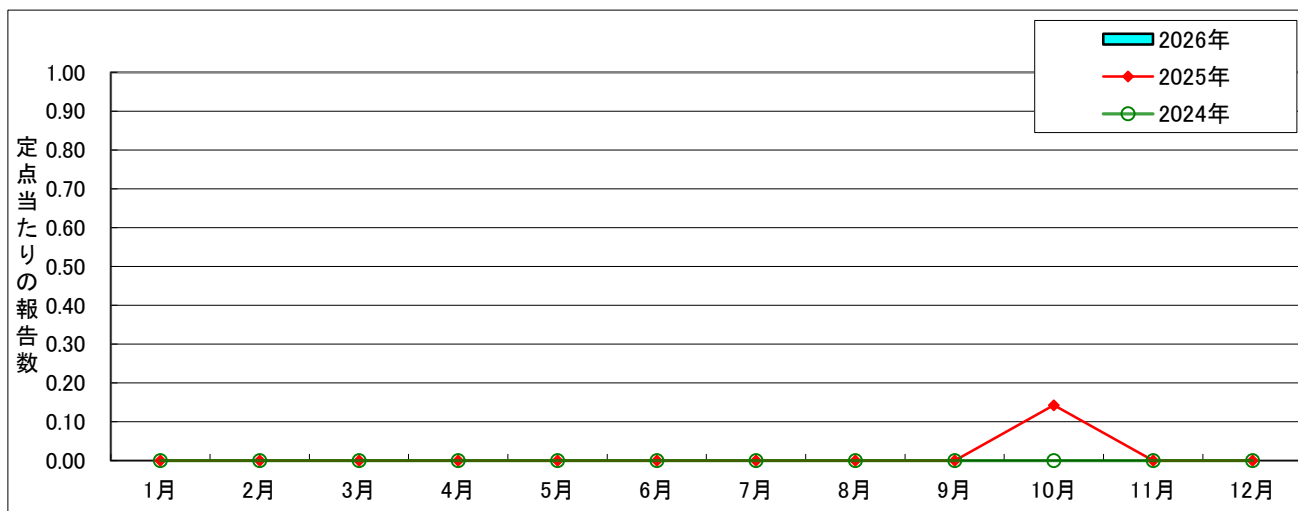
感染対策は？

高齢者の感染対策としてワクチン接種が有効です。入院患者のお見舞いの際は手指消毒等の感染対策が重要です。

福島県では？

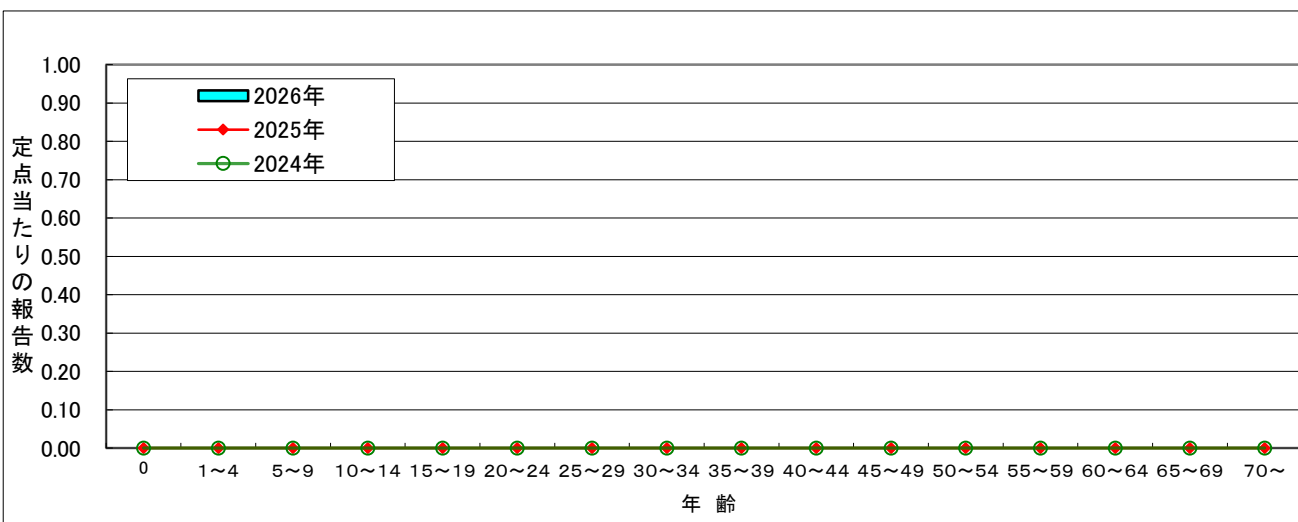
年に数例の散発的な発生で、高齢者からの報告のみとなっています。

薬剤耐性緑膿菌感染症

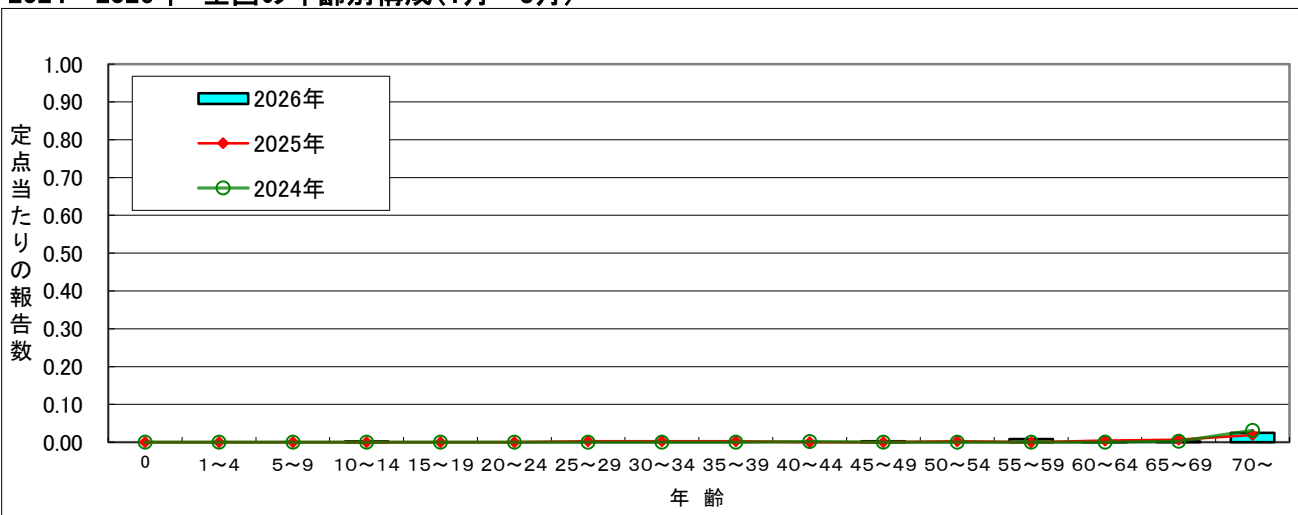


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2026年	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2025年	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00
2024年	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

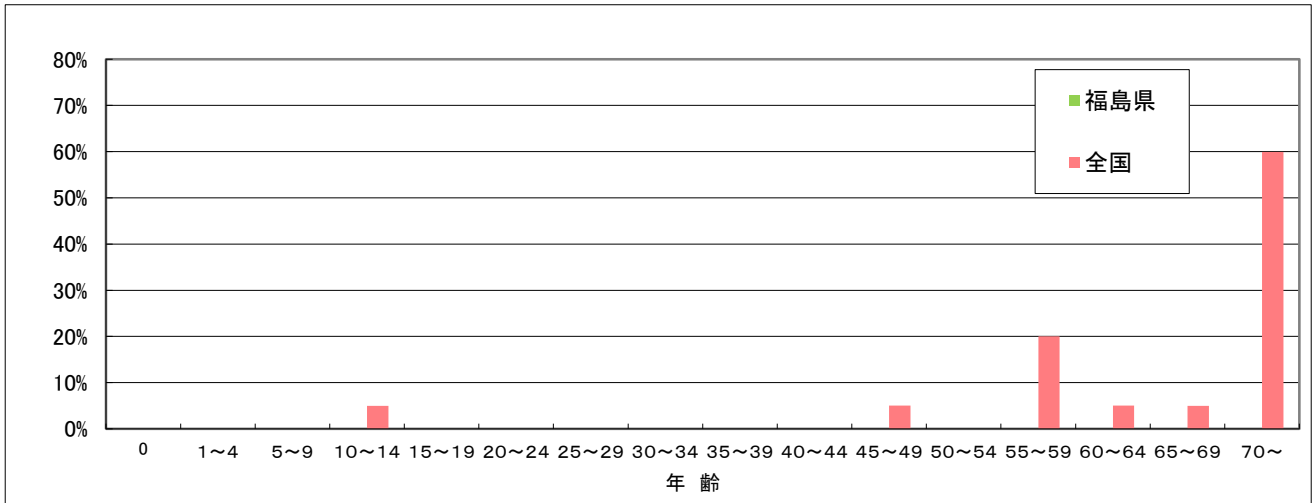
2024～2026年 県内の年齢別構成(1月～3月)



2024～2026年 全国の年齢別構成(1月～3月)



2026年 年齢別構成の比較(1月～3月)



【Q&A】

薬剤耐性緑膿菌感染症とは？

緑膿菌感染症の治療に使用する系統薬剤(抗生剤)に対して耐性を示す緑膿菌による感染症です。

感染経路は？

通常、健常者は無害ですが、免疫力が落ちた患者では、肺炎や、床ずれ等の傷口から血中に菌が侵入することで感染することがあります。また、入院中の輸液製剤や点滴回路、カテーテルの汚染によって院内感染する場合があります。

症状は？

肺炎、尿路感染症等が生じます。使用できる抗生剤に限られることから、菌血症や敗血症を引き起こすと多臓器不全等の重篤な状態となることがあります。

感染対策は？

院内感染対策が極めて重要です。感染拡大防止のため、通常の見舞いに加え、菌が検出された患者への接触予防策や個室管理等の検討が必要になります。



感染症月報 2026年4月号

令和8年4月30日

発行

発行 福島県衛生研究所 感染症情報センター
〒960-8560 福島市方木田字水戸内16-6
URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21910a/>
E-mail: eiseikenkyuu@pref.fukushima.lg.jp

本誌は、感染症法に基づくものであり、県内の定点医療機関、保健所の御協力を得て分析・提供するものです。